

『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

平成 23 年度は件報告書

ーケニア・ナイロビ大学、スワヒリ語、H23. 10. 9-H24. 3. 13ー

平成 23 年度入学
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
博士課程 1 回生
角田 さら麻

自身の研究テーマについて

東アフリカ、タンザニアのインド洋沿岸部は、紀元前より東南アジアや中東との交易を盛んに行うことで、人や物、文化、宗教など様々な要素が土着のアフリカ大陸文化と交流してきた。この長い期間を経て、東アフリカ沿岸部は、独自の「東アフリカ・コースト文化」を発達させてきた。それらは、今なおその地域に多く暮らすアラブ系移民、イスラーム宗教が担う役割の重要性、中東からの影響を受けた建造物や町並みなど、可視的な要素に留まらず、独自の色濃い文化を形成している。

私の研究は、これらの地域に展開する独自の文化を対象としながら、特に建造物・集落の構造のなかにイスラーム文化とアフリカ諸文化との接合、そしてその接合によって生み出された、空間認識について探求していく。集落における基本的構成要素である民家、役場、学校や病院など、これらがどのような意味をもっているかを調べるため、建造物についての詳細な調査を行う。それぞれの建材、構造、工法を詳細に調査し、建材・技術と生態環境・風土との関係を明らかにしていく。建物や集落の構造に関する調査を通して、アフリカにおけるイスラーム文化、本土の政治政策の影響について考察をしていく。また、集落の物理的構造に、社会的な関係を移しながら集落の構造がもつ機能的・社会的に意味について考えていく。

研修言語の概要

現在、スワヒリ語は東アフリカの広い地域において、国・民族を問わず、地域共通言語（リンガ・フランカ）として話されている言語である。バントゥー系言語に、外来語であったアラビア語が融合することで生まれたスワヒリ語は、発祥地をインド洋沿岸部としながらも、遠く内陸はコンゴ共和国の一部でも使用されている言語である。多言語話者が大半のアフリカにおいて、スワヒリ語は特に重要な言語として使用されている。

語学研修の内容について

ケニアの首都、ナイロビにあるアングリカン・チャーチ語学学校にて計 2 ヶ月半、スワヒリ語の語学研修を行った。スワヒリ語、フランス語、英語などの主流言語に限らず、アフリカ各地の少数派言語などを学ぶことができるこの学校は、アフリカだけでなく、世界各地からさまざまな人が言語研修に訪れる。授業スタイルも、1 クラスに生徒が 40 人の大規模なものや、10 人などの少数グループ授業、また、教師と生徒のマンツーマンなど、一人一人にあった授業スタイルが特徴的な場所である。

私は、通常の半年の語学研修コースを滞在期間の関係で困難なことや、タンザニアでの現地調査も控えていたことから、マンツーマン授業を選択した。ケニア人の先生から1日3時間の授業を週に3~5日受けることで、基本的文法から口頭演習などを中心に、とにかく「喋る」ことに重点をおいた授業であった。日常会話から、家族、日本、私の研究など、さまざまなトピックについて雑談という形の、言語取得に際して最も効果的な手法は、現地で行う語学研修ならではの授業であった。授業の合間に、毎日設けられている「ティータイム」では、全校生徒が30分の休憩中に紅茶などを飲みながら、交流する機会である。このティータイムで、ケニア、コンゴ、ザンビア、ソマリア、タンザニア、ブルンジ、韓国、など国際色豊かな友人をもつ機会を得、互いの語学研修の状態を確認し合うことで、モチベーション向上につながっていた。

研修期間中に印象に残った体験や経験

今回の研修でお世話になったわたしの先生は、授業内外問わず、常に携帯を使用している。休み時間になった途端（時には待たず）、携帯で会話をすることはもちろん、授業中の着信とメールの多さは、日本の社会にしてみれば、非常識で職務をまっとうしろ、などの意見があがりそうだが、しかし、頭ごなしに状況だけを聞いて判断してはいけない。彼は、語学の先生である以上に、神父でもあった。着信やメールは、日頃教会に、神父としての彼を頼ってくる信者からの、相談や緊急の知らせだったのである。彼を頼ってくる人達の話、それらに対する彼の反応・対処から、語学以上に様々なことを学ばせてもらった。授業が中断する事は事実だが、通常の授業終了時間をオーバーして、私が理解するまでつきっきりでスワヒリ語を教えてくれた。職が大切なのはもちろんだが、時にはそれ以上に大切にすべき「人」のつながりがあることを学んだ。

目標の達成度や反省点について

今回、スワヒリ語をナイロビで学ぶという点において、私の調査地のザンジバルにて通用するのかという不安があった。同じ言語ではあるが、ザンジバルはスワヒリ語の発祥の地ともされ、正統なスワヒリ語を話す事で知られている。対して、ナイロビは主流言語の一つでもある英語や急速な近代化に伴って、近年、特に若い世代で使用されているスワヒリ語に変化が生じている。しかし、先生がナイロビとザンジバルでのスワヒリ語の違いを理解しており、単語や言い回しの違いなどを細かく指導してくれることで、結果的に、ナイロビとザンジバルのどちらでも問題なく、会話・意思疎通を行うまでの語学習得ができた。

写真1：隣の教室で学んでいた、友達と。

写真2：授業中の風景

写真3：毎日の休み時間のコミュニケーションに欠かせない、紅茶。

写真4：学校に併設されている、食堂のご飯。一皿150円ほど。



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4